



研究者をもっと身近に！ 京都橘大学の“ヒーロー”たちが学問の魅力を発信 身近な悩みに専門分野の視点から解決に挑む動画を配信

京都橘大学（京都市山科区、学長：岡田知弘）は、多彩な教員の研究内容にスポットをあてた研究者PRプロジェクト「キョウトタチバナヒーローズ」を立ち上げました。本プロジェクトは、研究者一人ひとりの問いや想い、研究の魅力をわかりやすく発信し、高校生を中心とした若い世代が大学での学びに興味を持つ新たなきっかけを創出することを目的としています。

第1弾は、7月13日（月）より、教員を専門性や研究内容をもとにキャラクター化した研究者トレーディングカードを制作し、特設サイトと併せて公開しています。

第2弾として、大学教員が日常のさまざまな「悩み」に対し、それぞれの専門知識や人生経験を持ち寄って解決策を提案する動画コンテンツを展開します。

研究内容や学問の魅力をわかりやすく伝えるだけでなく、自身の学生時代の経験や葛藤、失敗談なども織り交ぜながら語ることで、研究者・教員の人柄や価値観にも触れられる内容としています。

近年、高校生の進路選択では「何を学びたいか」「何に興味を持てるか」が重視される一方、実際に、学問や研究に触れる機会は限られています。本学は、文系・理系・医療系の10学部18学科が1つのキャンパスに集う総合大学として、分野の異なる教員や学生が日常的に関わり合い、多様な知や思考が交わる環境にあります。「研究ユニット」をはじめ分野横断の共同研究も活発に行われており、その取り組みや成果は学生の学びにも広がっています。こうした本学ならではの長を活かし、多様な研究者の魅力を発信する本プロジェクトでは、社会のさまざまな問いに向き合う研究者を「ヒーロー」として表現しています。研究内容だけでなく、その人となりや考え方にも触れられるコンテンツとして展開します。

京都橘大学では、今後も、研究者の多様な視点や学問の面白さを発信し、本学ならではの総合知の魅力を伝えてまいります。

【キョウトタチバナヒーローズ～知の総力戦～ 動画第一弾 概要】

・お悩み

『絶叫マシンを克服したい』

◆動画公開サイト

・出演者情報

学生

依頼者：経営学部経営学科4回生

ナビゲーター：工学部建築デザイン学科3回生

教員

国際学部国際学科※ 講師・クリストファー、コネリー（専門：応用言語学、英語教育学）

デジタルメディア学部デジタルメディア学科 准教授・高本 陽花（専門：芸術学、3DCG）

看護学部看護学科 教授・松本 賢哉（専門：精神看護学）



※2027年4月に国際英語学部 国際英語学科から名称変更。

●取材・内容についてのお問い合わせ先

京都橘大学広報課 担当：前川、橋本 TEL：075-574-4112 E-mail：pub@tachibana-u.ac.jp



【動画内容】

動画第一弾では、「絶叫マシンを克服したい」という大学生からの悩みをテーマに、国際学科※、デジタルメディア学科、看護学科の教員が、それぞれの専門分野の視点から解決策を提案します。

異文化コミュニケーション、VR技術、精神看護学など多様な知見を持ち寄りながら、一つの悩みに対して多角的なアプローチを展開。教員同士の対話や議論を通じて、学問が日常生活の課題とどのように結びつくのかを紹介します。

また、教員自らが提案した解決策の有効性を検証する実証企画にも挑戦し、研究者の専門性だけでなく人柄や思考プロセスにも触れられる内容となっています。

※2027年4月に国際英語学部 国際英語学科から名称変更。



【ディスカッション】



【専門分野の紹介】



【専門分野の紹介】



【解決策の検証】

【オープニング曲、エンディング曲 概要】

本動画のオープニング曲『Getting Started!』とエンディング曲『Tachibana Soundscape』は、デジタルメディア学部の教員が制作しました。オープニング曲では、学生一人ひとりの好奇心が広がり、新たな挑戦へとつながっていく姿をイメージし、デジタル技術の先進性と京都橘大学らしい躍動感を音楽で表現しています。

エンディング曲は、学内で収録した環境音をもとに制作された楽曲です。救急救命学科の実習音や臨床工学科の機器音、ロボティクス学科の駆動音、書道で筆が紙に触れる音、弓道で矢が放たれる音など、キャンパスに息づくさまざまな「音」を取り入れています。

多様な専門分野が集う京都橘大学ならではの環境を音で表現しています。



【環境音集音】

左：ロボティクス学科
右：弓道部

●取材・内容についてのお問い合わせ先

京都橘大学広報課 担当：前川、橋本 TEL：075-574-4112 E-mail：pub@tachibana-u.ac.jp



【研究者PRプロジェクト「キョウトタチバナヒーローズ」 概要】

■「キョウトタチバナヒーローズ」について

「キョウトタチバナヒーローズ」は、研究者が持つ問いや情熱、挑戦、そしてその先に広がる学びの面白さを発信し、高校生をはじめとする若い世代が新たな学問や研究と出会う“入口”を創出するプロジェクトです。京都橘大学には、工学から医療、人文、国際、教育、心理、社会まで、多様な分野で社会課題の解決や新たな価値の創造に挑む研究者が集まっています。その一人ひとりが向き合うテーマには、未来につながる発見や学びの入口があります。10学部18学科が1つのキャンパスに集う京都橘大学では、多様な専門分野が日常的に交わり、新たな学びや価値が生まれています。一人の研究者から始まる学びの物語が、多様な分野との出会いによって広がり、やがて分野を超えた共創や新たな発見へとつながっていく。そんな京都橘大学ならではの研究や学びの姿を、「キョウトタチバナヒーローズ」という名称で表現しています。

また、プロジェクト名に採用した「ヒーローズ（Hero's）」には、研究者たちを単なる「ヒーローたち（Heroes）」という集団として捉えるのではなく、一人ひとりの研究者が持つ知識や情熱、問い、挑戦、そして物語を発信したいという想いを込めています。10学部18学科が集うワンキャンパスだからこそ、それぞれの物語がつながり合い、多様な学問や研究が交わることで新たな発見や共創が生まれる。そして、その先の全方位に広がる未来や可能性につながっていくことを表しています。

■ロゴに込めた想い

ロゴは、大学名の由来にもつながる柑橘類の「みかん」と、小高い丘に広がる本学キャンパスを照らす「太陽」をモチーフとしています。太陽には、研究者たちが知の力で社会や未来を照らす存在であるという意味を込めました。

シンボルに用いた10色は本学10学部を象徴しており、1つのキャンパスに集う多様な学びと、その交わりから生まれる新たな可能性を表しています。また、カタカナ表記部分にはヒーローのスカーフをモチーフに取り入れ、挑戦し続ける研究者たちの躍動感を表現しています。

